

令和4年度第1回福島県総合教育会議 議事録（概要）

1 日 時	令和4年8月26日（金）10時15分～11時45分
2 場 所	杉妻会館 3階 「百合」
3 出席者	<p>知 事 内堀 雅雄 教育長 大沼 博文 教育委員 浅川 なおみ 大村 雅恵 吉津 健三 正木 好男 成澤 勝蔵 <五十音順に掲載></p> <p>プレゼン発表者及び随行 大正大学 鈴木 美緒 一般社団法人未来の準備室 青砥 和希 福島高等学校 岩佐 奈々 福島高等学校教諭 高橋 昌弘</p>
4 議事内容及び経過	事務局（政策調査課長）
1) 開会	<就学前の子ども施策の充実について>
2) 議題	<p>【知事】 議題1、就学前の子ども施策の充実について、義務教育課長、子育て支援課長、私学・法人課長からそれぞれ説明をお願いします。</p> <p style="margin-left: 40px;"> ー 義務教育課長から資料1に基づき説明 ー ー 子育て支援長から資料2に基づき説明 ー ー 私学・法人課長から資料3に基づき説明 ー</p> <p style="margin-left: 40px;">以上の説明後、以下のとおり意見交換</p> <p>【正木委員】 幼児教育研修について、創造性を高める遊びについてという議題があるが、この件について意見を述べさせてもらう。</p> <p>私は、常日頃から国家の礎は教育に有りと思っており、今般のテーマである幼児教育の充実には家庭の環境も大いに関係してくるが、とりわけ幼稚園、こども園、保育所などの家庭外教育者との出会いが非常に重要である。</p> <p>時代は違うが、小生たちの幼少期は、砂場遊びや、缶蹴り、ビー玉、メンコ、竹とんぼ等で近所の友達と外で遊ぶのが日課であり、その遊びの中からいろいろな事を学び吸収してきた。</p> <p>特に、竹とんぼは、竹をナイフで削り羽を作るが、その削り方いかんで飛び</p>

方が変わってくる。これも今思えば創造性を高める遊びだったと思う。

今は放射線やコロナの感染拡大を受けて、子どもたちが遊びを十分に経験できていないし、ゲームが遊びの相手になっているのが大方の実情ではないかと思う。実は、幼稚園やこども園、保育所の先生たちも一緒であり、この10年、子どもたちを創造的に遊ばず経験が欠けてしまっているのではと思っている。

子どもたちの発達にとって就学前の経験は非常に重要であり、国造りの萌芽は幼児期の遊びの中にこそあると思っている。

来年度には、こども家庭庁が設置されるが、文部科学省、厚生労働省、内閣府が所管してきたそれぞれの分野が統合されると思う。県内の628園における幼児教育を進化させるには、県内外の先進的な取組の共有、教育者の演習・訓練、さらには保護者への教宣が重要である。

子どもたちは、将来の社会の担い手であり、国際社会に誇れるモノづくりの担い手でもある。創造的な「遊び」の重要性を幼稚園、こども園、保育所の先生方、保育者の方々が認識できるように、諸対策を是非とも進めていただきたいと思う。

【大村委員】

幼児教育というのは大変な課題だと思っている。

今、小学校、中学校、高校等で様々な問題が起きている背景に、幼児教育の充実というものを考えざるを得ないと思っている。

その中で、特に非認知能力の育成については、非常に重要だと思っている。

現状では、女性が社会参加していく中で共働きが必然になってきており、本来であれば母親や父親が子どもと接する時間がある中で、その中で、非認知能力についての対応もできる時間があったかもしれないが、現状において働いていく限りは、子ども園や保育園、幼稚園の延長保育にお願いする部分が非常に大きい。そこが充実していないと非常に不安で、仕事に集中できないというような課題があると思う。

先ほど義務教育課長から説明があった、3ページの就学前教育の課題の中で、遊びを通して学ぶ環境づくり等について、園や教職員ごとの捉え方が違うという課題は非常に大きなものだと思っており、実際に情報共有やマニュアルを充実してもらわないと、働く者にとっての課題は永遠に不安のままになってしまうと思っている。

ここが県として、特に集中的に対応をお願いしたい部分だと思っている。

【浅川委員】

私は四歳、五歳ぐらいから大人までピアノを教えている。

幼稚園の子と保育園の子と両方教えているが、子どもたちの特徴を見ると、幼稚園の子は、特色を出している幼稚園、例えばクリスチャンの幼稚園な

どは、小さい時に精神的なものを学べるなど、幼稚園ではこういうふうに行っているという話をよく聞いている。

一方、保育園の子は、そういうことが全くないので、フリーでいろいろな遊びをしたりなど、そのギャップが就学前はすごく大きい。しかし、学校に入ってしまうと学習の方が主になってくるので、幼稚園で一生懸命やった教育がいかされるかどうかは全く関係がない。ただ、その子を個人として見ると、成長するときの精神的な支えにはなっていると思う。

一番は、幼稚園は文部科学省の管轄だったり、保育所が厚生労働省の管轄だったりということで、やらなければならないことや基本的なことが違うので、それが小学校入学時にかなりギャップになっており、それを先生方がどのように捉えるかということが分かっていないと思う。幼稚園の先生方、それから学校の先生方で、お互いにもう少しそういったところを共有して理解したらうまくいくと思っている。

また、昔作られた制度のまま今の幼稚園と保育園がある。昔は母親が大体家庭におり、その前提で保育園があったが、今の家庭はほとんどの母親が働いている。

保育園で働いている親が、子どもを幼稚園に入れたいと思っても、子どもが幼稚園から1時、2時に帰ってきたのではとても見られないため、次に第二保育を探すようになってしまう。子どもを幼稚園に入れたいという親にとっては、それができないのが現状だと思う。だから、幼稚園、保育園、小学校で、子どもが年長さんになったら、同じようなことを学べて学校に入ることができるよう状況になれば良いと思う。

【成澤委員】

私からは、大きく二点ほど発言したいと思う。

まず、幼児教育は、今まで子どもたちが家庭や家族しか知らなかった範囲から、友達や地域社会への成長の第一歩となる大変重要な教育だと思っている。

また、この社会が発展・維持していくためには、子どもたちへの支援・投資の必要性があると思っている。

幼稚園と保育園の違いはあるが、義務教育課、保育所や認定子ども園は子育て支援課、私立幼稚園は私学・法人課が、それぞれしっかりとした目標を持って課題解決のために支援事業を行っており、各部局が連携して横のつながりを持って取り組むことによって、更により良いものになると考えている。

また、保護者が幼児教育を理解して、家庭でも実践していくことが重要。現在でもPTAなどが代表して研修等を行っているとは思いますが、それを皆さんに伝えるという理想には程遠いと感じている。そのための情報提供や相談窓口は特に必要と思っている。

他県では、幼稚園の先生や保育園の保育者等に対しての研修機会の提供、幼

児教育の研究結果の普及や啓発活動、各園からの教育相談等を行う幼児教育センターの設置が進められている。設置されている、又は、今現在準備中であるという都道府県が、既に半数を超えており、本県も設置の検討をしてもらいたいと思っている。

二点目として、今回の議題は就学前の子ども施策の充実だが、小学校入学後の1年生のクラスでは、授業について行けずに分からないまま進んでしまったり、授業中にトイレに行くような児童や騒いだりする児童がいると、担任の先生はその面倒を見なければいけないということがあると聞いている。

そのような児童の対応をする副担任やスクールサポートスタッフがいれば、サポートもできるし、授業もより充実したものになるのではないかと考えており、小学校1年生のクラスに、副担任やスクールサポートスタッフ等の支援を行ってもらいたいと考えている。

【吉津委員】

この議題1について、小学校、中学校、高校はイメージが湧きやすいが、保育所、保育園、幼稚園というイメージが湧かず、議題自体がなかなか難しいなという感想を持った。

改めて資料等を見て、非認知能力の育成は重要という説明もあったが、では、非認知能力とは何だろうというところから始まった。ちょっと勉強すると、目標を決めて取り組んだり、意欲を見せる、新しい発想をする、周りの人と円滑なコミュニケーションをとるといった力のことで、子どもが人生を豊かにする上で、とても大切な能力であると言える。

ちょっと聞きかじったような話をさせてもらうが、これは子どもだけではなくて、当然大人にとっても全部当てはまっている。目標を決めて取り組む意欲を見せる、新しい発想をする、周りの人と円滑なコミュニケーションをとるといったのは、大人の社会にとっても非常に重要なことであり、これは三つ子の魂百までを、文字どおり三つ子の魂から、是非こういった非認知能力の育成をやってってもらいたいと思っている。

私は、労使紛争、労働者と使用者の紛争のあっせんのような仕事をしているが、偏った主観的な意見で、周りの人と円滑なコミュニケーションをとることが難しい方が時々見られる。こういった仕事をしていると、この非認知能力は、大人の社会でも非常に重要なのではないかと思う。

今までのように、目標を決めて点数を取ってというような、認知能力を育てることだけでは対応できないような世の中になっていると思っており、3.11のような地震が起きるとは誰も思っていなかったし、コロナで3年間も苦しむなどということも誰も思っていなかった。ああいう場所で戦争が起きるなんて誰も思っていなかった。

点数を取ってやっていく能力も大切だと思うが、そういった想定外が起きた

ときに、資料1の2ページにある、「自分の人生を切り拓くたくましさを持ち」だとか、「対話と協働を通して」というような辺りを、是非、目標に掲げて進めてもらいたいと考えている。

【知事】

続いて教育長からお願いします。

【教育長】

今ほど各委員から、非認知能力の育成がいかに大事か、そしてそれが遊びなどを通して育成されていくということの重要性、さらに幼保の取組のギャップが、小学校入学時において様々な課題を抱える原因になっているのではないかという話もあった。

正に、そうした質の高い教育、保育をこれから提供していくために、幼保小の連携によって研修を充実させていく、そして、こども未来局を始め、他部局と連携しながら施策を展開していかなくてはならないと考えている。

もう一つ、家庭もキーワードになってくる。共働きという話もあったが、いわゆる様々な不安や悩みを抱えている家庭、特に支援が届きにくい家庭を対象として、どうフォローアップしていくかということもすごく大事だと考えている。

県教育委員会で社会教育課を中心に、そうした家庭教育を支援するチームを支援する取組なども行っており、そういう観点も大事にして進めていきたいと考えている。

【知事】

来年度、こども家庭庁が設置され、スタートする。

それを踏まえ、幼小連携について知事部局と教育委員会とで、より連携を強化しながら取り組んでもらいたい。

< 「福島ならではの」の社会課題の解決に向けて >

【知事】

続いて、議題2、「福島ならではの」の社会課題の解決に向けて、まず、高校教育課長、復興・総合計画課長からそれぞれ説明をお願いします。

次に若者の取組として、大正大学の鈴木美緒さんによる社会貢献活動に関するプレゼンと、福島高校の岩佐奈々さんによるSDGsの取組によるプレゼンをお願いします、意見交換に移りたいと思う。

- － 高校教育課長から資料4に基づき説明 －
 - － 復興・総合計画課長から資料5に基づき説明 －
- 以上の説明の後、以下のとおりプレゼンと意見交換

【知事】

まず最初の発表は鈴木美緒さん。

現在、大正大学の一年生、昨年度開催された全国高校生マイプロジェクトアワード2021全国サミットにおいて、手話でコミュニケーションをとりながらカフェの時間を楽しむという取組で、文部科学大臣賞を受賞している。

- － 大正大学、鈴木美緒さんからプレゼン（資料6） －

【知事】

鈴木美緒さん、素晴らしいプレゼンありがとう。

先ほど鈴木さんのプレゼンに出てきたEMANONの青砥和希さんがその運営を行い、鈴木さんや高校生の活動をサポートしているが、今のプレゼンを見て、是非補足を一言お願いします。

【青砥理事長】

一般社団法人未来の準備室の青砥です。

活動の拠点となったコミュニティ・カフェEMANONを白河市で運営している。

ここでつながることができたことが、私としては本当に心からうれしかったと思っている。

どうしても縦割り、縦割りで、このメニューをやればこの人が救われるのではないとか、この人にサービスを届けられるのではないかという考えになってしまうのは、私も重々感じている。だからこそ、どんな人にも開かれた場所、セーフティネットを何重にも敷かないと意味がない。そしてそれをネットワークにしないと意味がないということを改めて感じた。

一方で高校の先生も、近年は探究学習など地域の方とつながる意味を少しずつ見いだしており、むしろ高校生を地域の居場所に送り出してくれる先生も増えてきていると実感しているので、鈴木美緒さんの経験から我々が学ぶこともたくさんあると改めて思っている。

【知事】

鈴木さん、青砥さんありがとう。

それでは、続いて岩佐奈々さん。

福島高校、環境問題の解決に貢献するため、福島県内の企業と連携をして、

バクテリアセルロースを原料とした環境に優しいストローの開発を目指して研究に取り組んでいる。

昨年度開催された日本学生科学賞の県審査で県知事賞を受賞している。

－ 福島高校、岩佐奈々さんからプレゼン（資料7） －

【知事】

岩佐さん、すばらしい発表ありがとう。

これから意見交換に移りたいと思う。

【吉津委員】

ストローの発表に関して、これは酢こんにゃくの膜を丸めるようなイメージなのか、作ったプロセスのイメージが湧きにくかったので、どんな感じで作ったのか、費用はどのくらいかを聞きたい。

【岩佐奈々】

まず、BC膜を作成した後、紙ストローを使いながら、らせん状に巻いている。

コストの関係について、酢こんにゃくは太田酢店さんから無料で頂いているので、特にBC膜を作る際にお金はかかっていない。しかし、BC膜を乾燥させる際にとっても高い電気代がかかってしまうので、そこは課題になっている。

【浅川委員】

私は白河なので、鈴木美緒さんの話になるが、中学校からコミネス合唱団と一緒に活動している。

彼女は、中学校や高校の時も、やろうとと思っていること、やりたいことがいろいろとあった。小学校と中学校で連携してやりたいと思っていたことで、小学校では協力してくれる話だったが、中学校では先生方の関係でなかなか協力してくれないことがあった。

学校教育と関係のないことについても、やりたいという子どもが出てきた時には、協力してくれるような福島県の先生方であってほしいと思っていた。

その後、彼女が手話カフェを始めて、オンラインでの発表や審査員の先生方から質問された時に、きちんと自分で審査員の先生が納得できるような発表ができており、きっと上位に入るだろうと思っていたので、今回、非常にうれしく思った。

あとは、EMANONという居場所が、子どもたちの精神的な成長を助け、大学から就職するまでの、家や友達とかに話ができないようなことなど、何でも相談に乗ってくれるような場所として、白河にあって非常にうれしく、そこ

から鈴木美緒さんのような子が出てきたことをうれしいと思っている。

【知事】

浅川委員が非常に鈴木さんと関わりが深いということ、また青砥さんもそうだが、そういう場がある、そして鈴木さんがみんなにこうして見てもらっていたんだなということがよく分かった。

鈴木さん、今のこのお二方の話を聞いて何か感想があればお願いします。

【鈴木美緒】

今日、久しぶりに会えたのですごくうれしい。

白河にはそういう場所がある。白河だけではなく、郡山や福島など県内にほとんどと広まっていったらいいと私は思っている。

【大村委員】

最初に手話をされていたが、自己紹介なのか。

【鈴木美緒】

私の名前は鈴木美緒ですと、これから手話カフェしゅわしゅわについて話したいと思いますという手話をやっていた。

【大村委員】

それとアイラブユー。手話はここに書いてある言葉一つ一つではなくて、フレーズでも使えるものなのか。

【鈴木美緒】

日本語と似ているが、五十音の手話もあって、指だけで表せるものもあるし、普通に手話という形で動きが付いているものもある。

このアイラブユーの手話だけが、世界共通手話と呼ばれていて、これだけは、アメリカに行っても中国に行っても、どこに行ってもいろいろな方と通じ合えるので、すごい好きな手話であり、広めたいと思って最後に必ず入れるようにしている。

【大村委員】

仕事柄、どのようにろう者の方と話をするかが課題なので、大変参考になった。

次に、セルロースの話について、バクテリアセルロースを使うという発想のきっかけは何か。

【岩佐奈々】

初めは、キノコの菌について研究していたが、調べていくうちに県内の酢こんにゃくが破棄されているということを知り、酢こんにゃくを使ってできないかと考え始めた。

【大村委員】

今、森林資源ということで木を使っていけば、ポリエステルなどを使うよりは良いと言われているが、資源を使い切ってしまうということがあるので、この課題は今非常に注目を浴びている。

私も何かあるかなと思っていたときに、そのような研究をされたということで身の回りを見てみると、いろいろ使える素材があるのかと改めて勉強させてもらった。

【成澤委員】

一昔前だと、地元のイベントにろう者の方が参加することがあまりなかったが、三年前にろう者の方が参加されて、私の仲間で手話をできる者がその方と話をした。そうすると、その方が今年も参加されて話をしていた。

このように、私たちが手話を取り入れてコミュニケーションを図ることによって、ろう者の方が町に出てきて、活発になってくれると感じている。

もう一つ発表を聞いて思ったが、自己肯定感という話があった。そういう自己肯定感を持っている学生が、今増えてきていると感じている。

次に、福島高校のスーパーサイエンス部の岩佐さん。発表ありがとう。

この引張強度試験や圧縮強度試験は、大学の工学部でやるような試験であり、工夫して試験されていると感じた。さすが、スーパーサイエンススクールの学校だと感じた。

この中で、ちょっと先のことを見ることによって、今やってる勉強が楽しくなったり、何か将来が見えたりしているのではないかと感じている。

例えば学校でも、小学校に中学校の教科書が置いてある、中学校に高校の教科書が置いてあると、興味のある生徒はそういうものを見る。

そういう生徒の学力が伸びたり、自分でなぜこういう勉強をしているのかを理解するそうなので、これから将来が楽しみだなと思っている。

【正木委員】

鈴木さん、手話カフェしゅわしゅわのプレゼンについて、マイノリティへの気遣いというか、そのツールの一つとして、手話で新たな活動をしてることに対して大変感服した。

それから、BCストローの普及の問題で質問だが、知的財産権は知っているか。あるいは特許は知っているか。

【岩佐奈々】

まだ、特許の出願までは考えていないが、行く行くはやっていきたいと考えている。

【正木委員】

すばらしい製法の一つのヒントだと思う。それが商業ベースにつながるかどうかは別な問題として、こういった研究について、周りの先生方、あるいはそういった酢を作っている業者の方々と、とにかく登録しておくということが、将来に渡って非常に有効な手段だと思う。大変立派な研究をしておられて感服した。

【知事】

高橋先生から、岩佐さんを始めスーパーサイエンスハイスクールの皆さんの研究に対する日頃の取組がどんな雰囲気か、是非補足をお願いします。

【高橋教諭】

スーパーサイエンスハイスクールの主任を務めている高橋です。

本日発表した研究は、学校の中だけでは成し得なかったことだと思う。そこから一歩外に出て、企業の方でも我々にとって見れば、宝物のようなものが作られているということが分かり、正にお互いウィンウィンの関係になっていると思う。

先ほどコストという話があったが、実は昨年、生徒と一緒に計算した結果、ストローがおよそ一本400円ぐらいということが分かってきた。そこで実際のところを考えるには、例えば商業高校の生徒にも入ってもらい、普通系高校と実業系高校が混ざって、高校生同士でさまざまなディスカッションをするような機会があると、複数の共同研究などによって成し遂げることができるのではないかと思い、今事業を考えている。

【知事】

まず、鈴木美緒さんのしゅわしゅわについて、手話カフェは白河だけではなく東京でもやっているが、東京と白河で同じところ、あるいは違うところはどこか。

【鈴木美緒】

東京で一回と、白河市で二回ほどやっているが、ろう者の方と聴者の方がつながる雰囲気は同じで、本当に初対面なのに、なぜか手話だと話せるという感覚がすごいと思う。

東京でやった時には、4月から大学の手話サークルに入ったような一年生が、

すごくぎこちない中、手話でどうにか表現してろう者の方に伝えるというような、伝えたいとか伝わってほしいという、お互いの総合的なコミュニケーションは、どこで開催しても同じだなと感じた。

違う点だと、参加者の度合いが結構違っており、福島だと、例えば手話サークルの方だったり、EMANONを通してチラシをまいた中・高生だったり、あとはプラスで手話に興味がある大人という形だが、東京でやると、チラシをまいたところから確実にお客さんが来るような形で、区役所を通して手話の講座をやっているところにチラシをまいてもらったりしたが、そこから多くの方が来てくれたりだとか、あとSNSやインスタグラムを手話カフェでやっているが、ろう者の方でそれを見て来た方とか、商店街の中にあるカフェで行ったので、フラッと寄ってみたというお客さんがすごく多くて、そこは差があったなと感じている。

【知事】

今、一問、何気なく聞いたが、共通の部分と違うところの答え方を、非常に上手に我々に伝わるように話をしてくれた。

この鈴木美緒さんの土台をつくったのも、EMANONもそうですし、白河、あるいは学校環境も含めて、福島の地域なんだということを少し誇らしく思いながら聞いていた。

続いて岩佐さんに質問だが、今、岩佐さんは一年生で、恐らく今回のストーリーの研究は先輩方から引き継いでやっている部分もあると思う。

これから二年生、三年生の活動期間があるが、岩佐さん自身はこの研究を深めていく、例えば何かちょっと別の方向に深めていくのか、あるいはまた新しくやりたいことがあるのか、これからのスーパーサイエンスハイスクールでこれをやりたいということがあれば教えてほしい。

【岩佐奈々】

これから私がスーパーサイエンスハイスクールでやりたいことは、この研究をより深めていく方向にあるが、バクテリアセルロースを使って何か他のものにいかせないかなど、バクテリアセルロースを使う利点をもっと探してみたいと思っている。

【知事】

バクテリアセルロースというのは、今SDGs、地球環境の観点でも大事だが、今までストーリー一本で、ある意味できていたけれど、何か別のジャンルはないか、新しい角度で進化させていくことはすごく大切である。

実はこのプロセス、今やっている考え方が、これからの勉強、あるいは大学生活、あるいは社会人になって仕事をする上でも、応用がものすごく効くので、

是非、この高校時代のうちに試行錯誤をしながら、今自分の目の前にある大事な課題解決を、どう実際に実現していくかというプロセス、失敗もいっぱいあると思うが、何度も何度もぶつかりながら挑戦を続けてほしいと思う。

続いて教育長からお願いします。

【教育長】

まず鈴木さん、私は5月に教育長室で発表を聞いたけれども、早速、大学に行って巣鴨で実践されているということ、今日スライドがアップデートされていることを見て、非常にうれしく思っている。

スライドの中に、手話カフェの活動にゴールはないと書かれていたが、正にそれを体現しているということで、これから更に手話カフェの活動が充実されるように期待して見ているので、頑張してほしいと思う。

岩佐さんについては、本当にバクテリアセルロースに着目して、環境問題に科学的にアプローチしていこうという意欲的な取組にすごく感銘を受けた。あとはやはり福島で酢を作っているお店の、産業の付加価値を高めていきたいというところに着目されている点も、すごく評価したいと思っている。

今知事からも話があったとおり、一年生なので、是非これからも研究を更に進化させて、二年生、三年生、あるいは大学に行っても、様々な研究に結び付けていってほしいと思っている。

あと、青砥さん、それから高橋先生からも話があったけれども、地域のセーフティーネットづくりという観点や、学校外に飛び出しているいろいろなところとコラボレーションするというような話があって、非常に学校現場に向けても重要なメッセージだと思っているので、そこをしっかりと私も受け止めて、これから進めていきたいと思っている。

【知事】

それでは、鈴木美緒さん、岩佐奈々さんのすばらしいプレゼンテーション、またそれを支えている青砥さん、高橋先生、この四人の登壇者の皆さんにもう一度大きな拍手をお願いします。

<県立高等学校改革の状況について>

【知事】

それでは、次に報告事項に入る。報告事項の1、県立高等学校改革の状況について、県立高校改革室長から説明をお願いします。

— 県立高校改革室長から資料8について説明 —

【知事】

福島県の未来を担う若者たちにより良い教育環境を提供して、教育の質を高めることは非常に重要である。

引き続き、地域の皆さんに丁寧に趣旨を説明し、御理解を頂きながら取組を進めてほしい。

<県立高等学校改革の状況について>

【知事】

次に、報告事項の2、ヤングケアラー支援について、児童家庭課長から説明をお願いします。

－ 児童家庭課長から資料9について説明 －

【知事】

実態調査の実施を含めて、ヤングケアラーの支援について、知事部局と教育委員会が連携していくことが重要である。

引き続き、悩みや不安を抱える子どもたちが一人でも取り残されることがないように、取組を進めてもらいたい。

以上で本日の議題は終了した。

今日は特に、鈴木美緒さん、岩佐奈々さんのプレゼンがあり、それを支える大人たちの頑張り、また、委員の皆さんからの非常に温かい応援の言葉を頂き、実りある総合教育会議だったと思う。

(3) 閉会

事務局（政策調査課長）